

校 歌

作詞：西條八十

作曲：古関裕而

一、 狩勝の峰 雪白く
十勝の流れ 水清し
うるわしのふるさとに学ぶ我等
若き眸は 理想に燃えて
たくましき 力もて進む
池田 池田 讃えん我等の母校

二、 柏のみどり 濃やかに
誓もかたき 友と友
研鑽の途をゆく 楽し我等
高き知性の 花咲くところ
天そそる 高嶺をも越えん
池田 池田 讃えん我等の母校

三、 あけぼの匂う 北の国
民主自由の 鐘は鳴る
今ぞ起て いざ励め若き我等
力協せて 我等の腕に
日のもとの 栄をば築かん
池田 池田 讃えん我等の母校

★作詞者について

西條 八十 (1892 - 1970 (明治 25 年～昭和 45 年)) 詩人、作詞家、仏文学者。
児童文芸誌「赤い鳥」に童謡を発表し、北原白秋と並ぶ大正期の童謡詩人。早大仏文学
科教授のかたわら歌謡曲を作詞、戦時中は軍歌の作詞も行う。戦後は日本音楽著作権協
会会長を務める。

[主な作品]

・童 謡

「かなりあ」(1918 年、童謡に曲がついた最初の作品)

「肩たたき」

～母さん お肩をたたきましょう タントン タントン タントントン

～母さん 白髪がありますね タントン タントン タントントン (略)

「鞠と殿様」

～てんてんてんまり てん手鞠 てんてん手鞠の 手がとれて (略)

・歌謡曲 (流行歌)

「東京音頭」(1933 年)

～(ハアア) 踊り踊るなら (チョイト) 東京音頭 (ヨイヨイ)

～花の都の 花の都の真ん中で (サテ) (略)

「青い山脈」(1949 年)

～若く明るい 歌声に 雪崩は消える 花も咲く
青い山脈 雪割桜 空のはて きょうもわれらの 夢を呼び (略)

・校歌・応援歌

「早稲田中学校・高等学校第二校歌」、「横浜市立大学校歌」は作詞が西條八十、作曲が古関裕而と本校と同じコンビによる校歌である。

・その他

映画「人間の証明」(1977年)のテーマ曲の歌詞は西條八十の「帽子」をもとにジョー山中が英訳して歌った。

～母さん、僕のあの帽子、どうしたでせうね？

ええ、夏碓井から霧積へ行くみちで、
溪谷へ落としたあの麦稈帽子ですよ。

～母さん、あれは好きな帽子でしたよ。

僕はあのとき、ずいぶんくやしかった。
だけど、いきなり風が吹いてきたもんだから。(略)

(英訳) Mama, do you remember the old straw hat you gave to me

I lost the hat long ago flew to the foggy canyon yeh

Mama, I wonder what happened to that old straw hat

Falling down the mountain side out of my reach like your heart (略)

★作曲者について

古関 裕而 (1909 - 1989 (明治 42 年～平成元年)) 作曲家 (本名は古関 勇治)
20 歳の時、日本人として初めて国際的作曲コンクールに入選。交響曲、ピアノ協奏曲などのクラシックの作曲から軍歌、歌謡曲、大会歌、行進曲、校歌、応援歌などの作曲も手がける。曲風は格式高く気品があり、愛唱歌として口ずさんでしまう作品が多い。作曲した曲は五千曲に及ぶ。

[主な作品]

- 「紺碧の空 - 早稲田大学第一応援歌」(1931 年)
- 「東京農業大学応援歌 カレッジソング」(1935 年)
- 「大阪タイガースの歌 (六甲嵐)」(1936 年)
- 「若鷺の歌 (予科練の歌)」(作詞:西條八十、1943 年)
- 「栄冠は君に輝く」全国高等学校野球選手権大会の大会歌 (1948 年)
- 「長崎の鐘」(1949 年)
- 「イヨマンテの夜」(1949 年)
- 「ひめゆりの塔」(作詞:西條八十、1953 年)
- 「高原列車は行く」(1954 年)
- 「モスラの歌」(1961 年)
- 「巨人軍の歌 (闘魂こめて)」(1963 年)
- 「東京オリンピック・マーチ」(1964 年)
- 「純白の大地 (札幌冬季オリンピックの歌)」(1971 年)

その他

- ・NHK スポーツ中継テーマ曲「スポーツショー行進曲」(1949 年)
- ・NHK「日曜名作座」テーマ曲 (1970 年)
- ・NHK ラジオ「ひるのいこい」テーマ曲 (1970 年)
- ・出身校である「福島商業高等学校校歌」他、全国の校歌に関しては 300 校以上を作曲